



YANO RESEARCH INSTITUTE LTD.

2023年版 エステティックサロンマーケティング総鑑

(概要版)



 株式会社 矢野経済研究所

調査要綱

- 1.調査期間：2022年10月～2023年1月
- 2.調査対象：エステティックサロン、エステティックサロン関連商材取扱企業等
- 3.調査方法：当社専門研究員による直接面談（オンライン含む）、電話によるヒアリング、ならびに文献調査併用

<エステティックサロン市場とは>

エステティックサロンとは、人の皮膚を清潔にし、若しくは美化し、体型を整え、または体重を減らすための施術を行うことを目的に、エステシャンが手技、化粧品、機器を使用して施術するサロンをさす。

本調査におけるエステティックサロン市場には、国内の店舗型エステティックサロンで提供する施術（美顔、痩身・ボディ、脱毛、メンズエステ）と付帯する物品販売・その他サービスが含まれる。なお、セルフエステ、訪問エステ、理美容エステ、メディカルエステなどは対象外としている。

<市場に含まれる商品・サービス>

施術（美顔市場・痩身／ボディ市場・脱毛市場・メンズエステ市場）及び物販

1.市場概況

2022年度のエステティックサロン市場規模は、前年度比97.1%の3,141億円（事業者売上高ベース）と、3年連続縮小の見込みである。

分野別に市場をみると、全体の65.4%を占めるレディースの施術（美顔、痩身・ボディ、脱毛、その他の合計）市場は2,055億円（前年度比95.5%）、メンズエステ市場が96億円（同103.2%）、物販市場が990億円（同99.8%）と、メンズエステ市場以外はマイナスもしくは横ばい推移を見込む。

2022年度は、近年レディースの施術市場を牽引していた脱毛分野の、全国規模の出店をベースとするナショナルチェーン2社の破綻と他社への事業譲渡による店舗数減少の大きな影響を受ける見込みである。

2.セグメント別動向

美顔市場

2022年度的美顔市場は775億円（前年度比96.6%）の見込みである。

手技を主とする美顔施術は、エステ施術の中で最も大きな市場となっている。直接エステシャンの手で顔にふれるというメニューであることから、コロナ禍前は定期的にエステサロンで肌のケアを行っていた層も一部サロン離れがつついていとみられる。

緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などが断続的に発令されていた2021年以上に、ウイズコロナの気運が高まった2022年は、外出して人に会うということが多くの人の日常となり、肌荒れの解消や肌状態のケアを気にする人が増えたものと考えられる。

こうした環境や人々の意識に変化がみられることは確かであるが、複数のサロンにおいて、美顔に関しては女性よりも男性の新規客の増加が顕著であるときかれた。

痩身・ボディ市場

2022年度の痩身・ボディ市場は559億円（前年度比94.9%）の見込みである。コロナ禍での運動不足や自粛太りを気にする人は多く、関心をもつ人は少なくないとみられるが、ジムや痩身に特化したトレーニング系のサロンなどと競合する。エステサロンにおける痩身施術は、1回でも効果を実感できる施術が人気となっている。そのため、大手サロンでは集客には外部大学機関などとの産学連携、医療機関との提携によるサービスの強化といった要素で訴求する動きが活発化している。

脱毛市場

2022年度の脱毛市場は748億円（前年度比95.9%）の見込みである。美顔や一部の痩身施術とは異なり機器による施術が主である。近年は施術分野において、比較的堅調な推移となっていた一方、伸び率は鈍化傾向ともなっていた。2022年は脱毛サロンの大量閉鎖が市場にも影響を与えたが、スクラップ&ビルドや統合移転といったかたちですこし前に始まっていた。全体的な市場鈍化の要因には、コロナ禍での外出自粛が大きい。もともとサロン営業の担い手の中心である20代女性の人材不足や流出により、サロン運営や新規出店に不可欠な人員が手当てできないという問題も大きかった。技術者という人材の点では、機器を使った施術である分、採用育成においては美顔や痩身よりもハードルが低い面もあるが、若年層のスタッフ確保と勤続という点では相当ハードルが高くなっていた。そのため、サロンによっては身だしなみにおける規制を緩めたり、フレキシブルな働き方を促進したりと苦心している様子が見える。

3.注目トピック

メンズエステ市場の活性化

2022年度のメンズエステ市場は96億円（前年度比103.2%）の見込みである。レディースの施術市場が厳しい状況となった中で、プラス推移にあるのは明るい材料である。これまではある程度経済的にも余裕のある中高年層が主力であったのに対し、20代や30代といった若い年代の男性がエステの施術に関心をもち、実際にサロンに通い始めている。2022年度の伸長はコロナ禍前とは異なる客層の新規流入という点で、一時的な流れではなく、中長期的に定着を見込める客層として期待される。

男性客は女性客に比べ、体験すると契約に結び付きやすく投入する費用も多めであることが大きな特徴である。全国展開している企業が女性向けに比べて少ないことから、エステサロンのメンズエステ分野は、寡占が進みやすいということも言える。且つては美的意識が高く、金銭的にも時間的にも余裕のある大人層という明確な傾向があった。しかし、美意識の高まりが、一部の層ではなく広く浸透するようになっている20代を主とする男性客の増加が顕著となったことで、市場は微増推移が見込まれる。

4. 将来展望

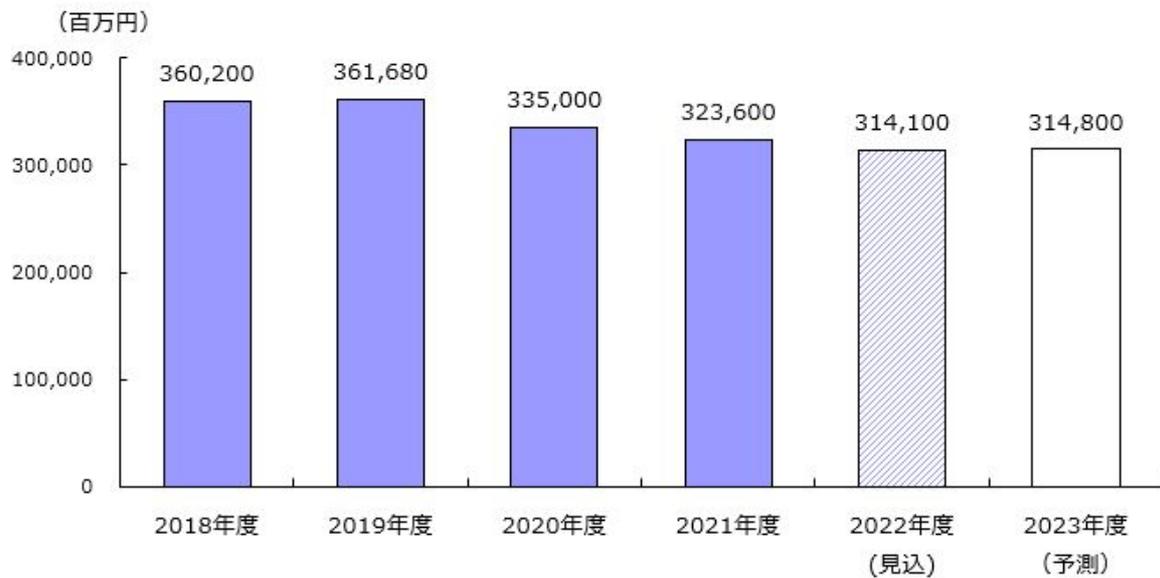
2023年度のエステティックサロン市場規模は、前年度比100.2%の3,148億円と予測する。エステティックサロン市場の今後の見通しとしては、コロナ禍収束への道筋が見え始めた2021年末頃とはまた状況が変化している。2022年に表面化した脱毛サロンの返金トラブルや経営破綻は、今後業界が獲得していく必要のある若い世代にとって、エステサロンに対する心配や不安を少なからず増幅させた可能性がある。気軽にそして安心して通える印象をもってもらい、エステサロンの実力を示すことで新規顧客として定着化を図ることがいま必要とされている。

総合エステティックサロンでは、長く新規顧客の獲得・定着化が課題となっている。セルフエステサロンや低額で通えるジムにセルフエステ機器まで備えられているという時代においては、生活防衛の意識が高まっている中、高額な費用を要するエステサロンに通える人、通う人は限られてくる。

時代が変化している中、何十年も前のビジネスのままでは、成長はおろかその維持さえも難しいという危機感を覚える。長期間にわたる施術に対し、多額の費用のローンを組んでサロンに通うという方法は、サブスクリプションサービスが広がる時代において、受容する層は少なくなっているのではないだろうか。

また、現在でも都度払いと言われる1回ごとの支払い方法は設定されているが、まとめて前払いする決済方法に比べてかなり割高となっているケースが多く、費用面で二の足を踏む人は少なくない。エステサロンのビジネスにおいて、固定費や一定の技術をもつ人材を揃える費用、最新の機器類への投資などサロンの維持には相応のコストがかかることは当然である。それを考えればセルフで充分と考える層を取り込むことは難しいが、相応の費用を投資してサロンでの時間を楽しむ客層を、着実に獲得してゆくための選択肢は幅広くもってきたい。且つてのエステサロンのビジネスモデルも、時代にあわせて変わっていく必要がある岐路にきている。

エステティックサロン市場規模推移



(単位：百万円、%)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (見込)	2023年度 (予測)
市場規模	360,200	361,680	335,000	323,600	314,100	314,800
前年度比	100.6	100.4	92.6	96.6	97.1	100.2

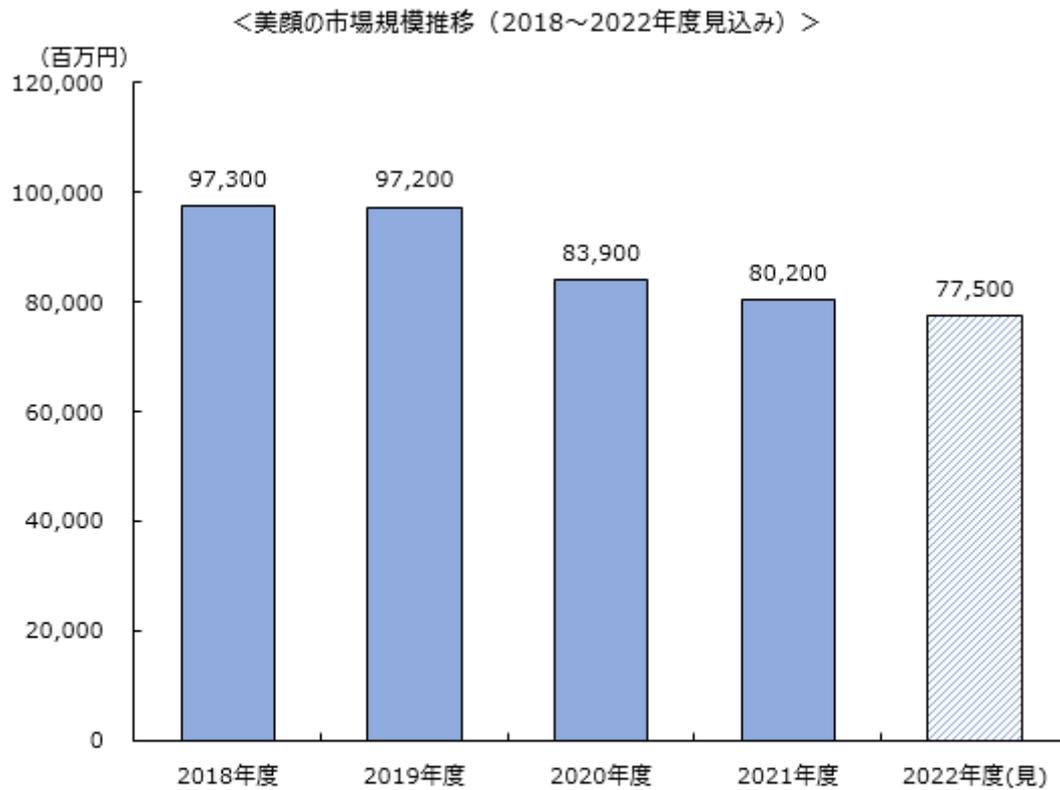
矢野経済研究所調べ

注1：事業者売上高ベース

注2：2022年度は見込値、2023年度は予測値

注3：エステティックサロン市場には、国内の店舗型エステティックサロンで提供する施術（美顔、痩身・ボディ、脱毛、メンズエステ）と付帯する物品販売・その他サービスが含まれる。なお、セルフエステ、訪問エステ、理美容エステ、メディカルエステなどは対象外としている

美顔市場推移



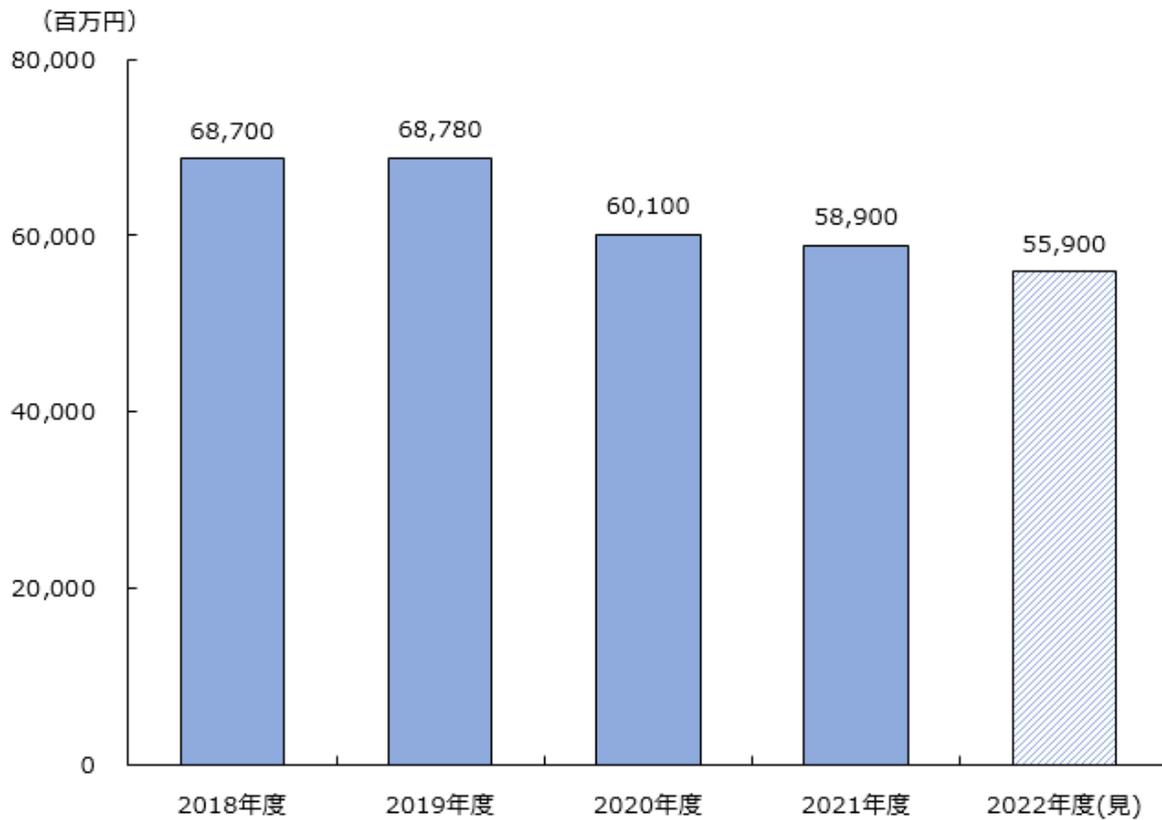
(単位：百万円、%)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度(見)
市場規模	97,300	97,200	83,900	80,200	77,500
前年度比	100.0	99.9	86.3	95.6	96.6

(矢野経済研究所推計)

痩身・ボディ市場推移

< 痩身・ボディの市場規模推移 (2018~2022年度見込み) >



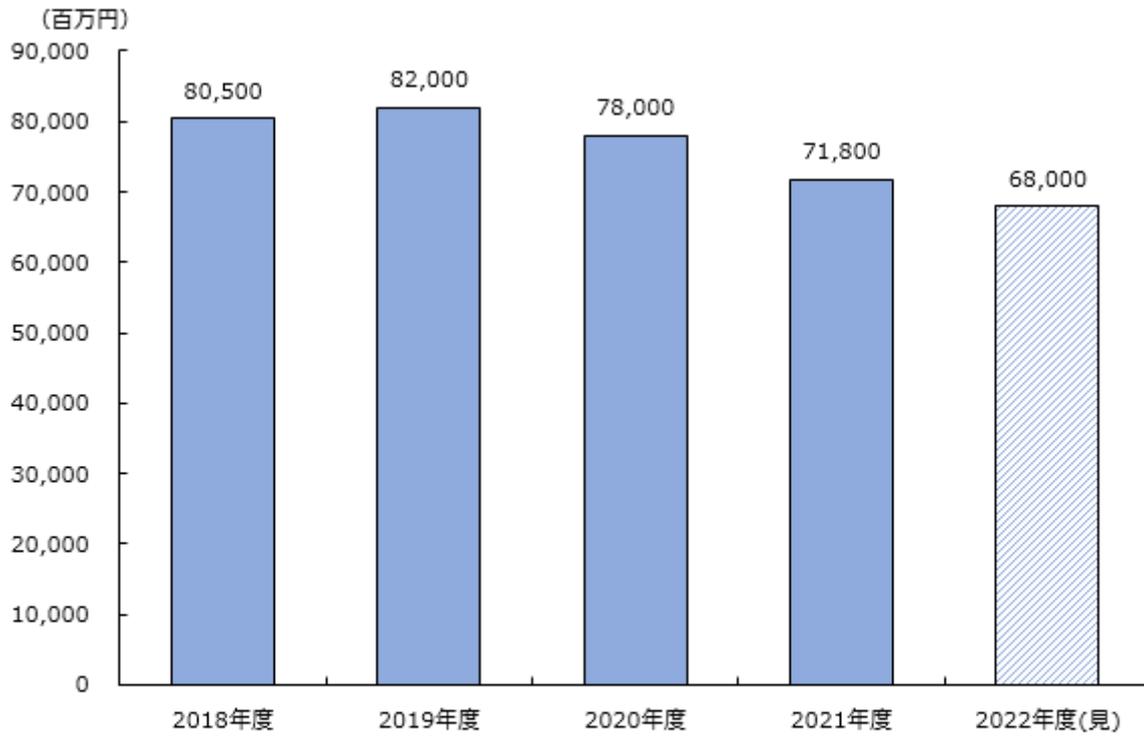
(単位: 百万円、%)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度(見)
市場規模	68,700	68,780	60,100	58,900	55,900
前年度比	100.3	100.1	87.4	98.0	94.9

(矢野経済研究所推計)

脱毛市場推移

＜脱毛の市場規模推移（2018～2022年度見込み）＞



(単位：百万円、%)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度(見)
市場規模	80,500	82,000	78,000	71,800	68,000
前年度比	102.3	101.9	95.1	92.1	94.7

(矢野経済研究所推計)

出典資料について

資料名	2023年版 エステティックサロンマーケティング総鑑
発刊日	2023年01月30日
体裁	A4 459ページ
価格(税込)	143,000円(本体価格 130,000円)

2023年版 エステティックサロンマーケティング総鑑 (概要版)

本体価格 1,000 円 (税抜)

発行日 2023年02月14日
発行所 株式会社矢野経済研究所
<https://www.yano.co.jp/>

東京本社 東京都中野区本町2丁目46番2号 中野坂上セントラルビル TEL 03(5371)6900(代)
大阪支社 大阪府大阪市中央区安土町1丁目8番6号 大永ビル TEL 06(6266)1381(代)
名古屋支社 愛知県名古屋市中区新栄町2丁目3番地 YWC Aビル TEL 052(962)2461(代)
ソウル支社 ソウル特別市鍾路区壽松洞146-1 Leemaビル 402号
TEL + 82-2-735-2280 FAX + 82-2-735-2290
矢野経済情報諮詢(上海)有限公司/上海代表処
上海市静安区南京西路1038号 梅龍鎮広場1609A室
TEL + 86-21-6218-1805 FAX + 86-21-6218-6822
台北支社 台北市信義區松仁路100號20樓
TEL + 886-936172881 FAX + 886-2-28227956

《禁コピー・無断転載》

本レポートのご利用はご購入者のみとし、コピー・転載を禁止致します。